

# 「館山市立小中学校再編計画」（素案）

令和5年11月 教育総務課（学校再編推進室）

## 基本方針

- 令和4年3月策定の「将来に向けた学校のあり方に対する基本指針」の副題である“未来を担う子供達に良好な教育環境を提供するために”の実現に向けた計画とする。
- 今回の学校再編検討業務は、急激な少子化の状況（市内小学校の半数以上が複式学級規模）を踏まえ“市全体の課題”として、特定の地域だけでなく市内10地区同時並行により協議・検討を重ねている。このような手法で実施しているからこそ、現代社会における教育課題に対する対策手法を含め、市全体の小・中学校を再設置できる「好機」と捉え、未来を担う子供達により良い教育環境を提供できる再編計画を策定する。
- 館山市学校教育の最重点課題である、子供達の『生きる力（※）』を育成できる学校環境を目指す。

（※ 生きる力の育成／館山市学校教育基本方針より）

「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の展開により、児童生徒の学ぶ意欲を引き出し、人生を拓く「確かな学力」・自他の生命を大切にし、思いやりのある「豊かな心」・健康で安全な生活を実践し、活力溢れる「健やかな体」を育むことで育成する。

- 「学習指導要領」における“これからの学校に求められること”として、一人ひとりの児童生徒が、『自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること』とされており、これらの実現に向けた学校教育環境を合わせて目指すこととする。
- 令和20年度（15年後）においても、適正な学校規模を維持可能な再編計画とする。

※ 子供や保護者の負担軽減（学校環境の度重なる変更を避ける）のため、中期的な見通しを持った再編計画とするが、これ以上の長期的な部分は、社会情勢や学校教育を取り巻く諸課題の変化など不確定要素が多くなるため考慮しない。

## 「学校再編計画」策定スケジュール

時期	教育委員会	学校再編調査検討委員会（有識者会議）	各地区考える会・他保護者・地区住民
平成30年11月 ～令和2年12月		○ 館山市立小中学校の将来を見据えた学校のあり方について【答申】（全10回会議）	
令和3年4月 ～令和4年3月	● 将来に向けた学校のあり方に対する基本指針（策定）	○ 将来に向けた学校のあり方に対する基本指針の策定協議（全2回会議）	
令和4年5月～7月	○ 市広報にて特集号掲載（基本指針概要版掲載）		□ 関係団体説明（PTA連絡協議会・町内会連絡協議会） □ 市内10地区説明会 （基本指針説明・今後の地区協議方法に関する意見交換）
令和4年8月～9月			■ 各地区（学校のあり方を考える会）組織委員の募集・人選
令和4年10月 ～令和5年9月		●（新）委員会 <第1回／令和4年10月> → 【諮問】館山市立小中学校「学校再編計画」の策定	■ 「学校のあり方を考える会」の“保護者委員”の意見集約化（各地区／4～5回会議開催）
令和5年2月～5月		（第2回会議：2月／状況報告）	□ 保護者説明会&意見聴取の実施

時 期	教育委員会	学校再編調査検討委員会（有識者会議）	各地区考える会・他保護者・地区住民
令和5年4月～6月		（第3回会議：4月／状況報告）	<input type="checkbox"/> 小学校保護者、地区内未就学児の全保護者に対し、「学校のあり方を考える会」の保護者意見結果を文書配布
令和5年6月～8月	（学校再編計画の策定に当たり整理検討すべき事項） <input type="checkbox"/> 小規模校の必要性に関する検討 <input type="checkbox"/> 不登校・発達支援への支援機能に関する検討		<input type="checkbox"/> 各地区の区長会議において、これまでの取組状況・地区保護者の意見説明（地区内の回覧版にて住民周知）
令和5年8月 ～10月	（9月中旬） <input type="checkbox"/> 小中学校再編計画 素案作成  （10月末まで） <input type="checkbox"/> 関連する施設整備手法の検討、費用面の算出 <input type="checkbox"/> その他、関連事項の整理・検討	（第4回会議／8月） <input type="checkbox"/> 小規模校の必要性に関する協議 <input type="checkbox"/> 不登校・発達障害に対する支援機能に関する協議  （第5回会議／9月） <input type="checkbox"/> 小中学校再編計画に関する協議 → 素案提示  （第6回会議／10月） <input type="checkbox"/> 小中学校再編計画に関する協議 → 素案確定	<input type="checkbox"/> 神余地区（学校再編委員会）から地区報告書の提出
令和5年11月	<input type="checkbox"/> 市議会説明（全員協議会） <input type="checkbox"/> 素案公表（プレス提供・HP公表）		■ 各地区考える会（公表前に素案説明）
令和5年11月 ～令和6年1月	■ 各地区考える会（調整～会議）		■ 各地区考える会 （保護者委員と素案に関する意見交換／各地区2回程度）
令和6年2月	<input type="checkbox"/> 各地区保護者説明会（調整～意見交換）		<input type="checkbox"/> 各地区保護者説明会（素案説明／意見聴取）
令和6年3月 ～4月	■ 各地区考える会（調整～会議）	（第7回会議） <input type="checkbox"/> 状況報告	■ 各地区考える会 （他保護者の意見聴取を踏まえた協議／各地区1回程度）
令和6年5月 ～6月	<input type="checkbox"/> 各地区区長会議（調整～意見交換） <input type="checkbox"/> 各地区説明会（調整～意見交換）		<input type="checkbox"/> 各地区区長会議（素案説明／意見聴取） <input type="checkbox"/> 各地区説明会（全地区住民対象／意見聴取）
令和6年7月	■ 各地区考える会（調整～会議）		■ 各地区考える会 （地区説明会後の意見聴取を踏まえた最終協議）
令和6年8月 ～9月	<input type="checkbox"/> パブリックコメント実施	（第8回会議） <input type="checkbox"/> 各地区意見を踏まえ原案確定に向けた最終協議	
令和6年10月	■ 各地区考える会（調整～会議）	（第9回会議） <input type="checkbox"/> パブリックコメント結果 → 答申	■ 各地区考える会（最終報告）
令和6年11月	<b>学校再編計画 完成 → 公表</b>		
令和6年12月～			<input type="checkbox"/> 統合準備委員会組織（統合校同士） ※ 廃校記念行事検討委員会組織編成の必要性協議

# 小・中学校再編計画（概略図）

## 1 中学校

【令和5年度】			【令和6年度】		【令和7年度】		【令和8年度】		【令和9年度】			【令和10年度】		【令和11年度】		【令和12年度】		【令和13年度】			【令和14年度】		【令和15年度】		【令和20年度】					
学校名	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	学校名	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	学校名	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均	生徒数	学年平均				
	普通学級	学年平均								普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均		普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均						
	特別支援	学年平均								特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均		特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均						
第一中	174	58	167	56	165	55	168	56	(仮) 館山中	176	59	155	52	130	43	117	39	(仮) 館山中	666	222	634	211	610	203	527	176				
	159	53								148	49	131	44	110	37	103	34		581	194	553	184	533	178			457	152		
	25	8								28	9	24	8	20	7	14	5		85	28	81	27	77	26			70	23		
館山中	718	239	738	246	716	239	663	221	(仮) 館山中	667	222	638	213	620	207	597	199	(仮) 館山中	666	222	634	211	610	203	527	176				
	663	221								678	226	647	216	584	195	531	177		512	171	581	194	553	184			533	178	457	152
	55	18								60	20	69	23	79	26	89	30		82	27	85	28	81	27			77	26	70	23
房南中	74	25	68	23	61	20	62	21	(仮) 館山中	667	222	638	213	620	207	597	199	(仮) 館山中	666	222	634	211	610	203	527	176				
	68	23								678	226	647	216	584	195	531	177		512	171	581	194	553	184			533	178	457	152
	6	2								9	3	8	3	8	3	8	3		8	3	8	3	8	3			8	3	8	3
合計	966	322	973	324	942	314	893	298	(仮) 館山中	843	281	793	264	750	250	714	238	(仮) 館山中	666	222	634	211	610	203	527	176				
	890	297								722	241	671	224	641	214	615	205		581	194	553	184	533	178			457	152		
	86	29								121	40	122	41	109	36	96	32		85	28	81	27	77	26			70	23		

● 生徒数の予測値を踏まえ（新）館山中学校の施設規模（教室数等）において、適切な教育環境を提供できる時期に、房南中学校・第一中学校を統合する。

## 2 小学校

【令和5年度】			【令和6年度】		【令和7年度】		【令和8年度】			【令和9年度】		【令和10年度】		【令和11年度】		【令和12年度】		【令和13年度】		【令和14年度】		【令和15年度】		【令和20年度】																					
学校名	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均	学校名	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均	児童数	学年平均																				
	普通学級	学年平均						普通学級	学年平均																	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均	普通学級	学年平均
	特別支援	学年平均						特別支援	学年平均																	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均	特別支援	学年平均
船形小	100	17	87	15	73	12	(新) 小学校	253	42	232	39	224	37	228	38	218	36	213	36	206	34	203	34	178	30																				
	81	14						219	37																	204	34	198	33	201	34	192	32	188	31	181	30	179	30	154	26				
	19	3						34	6																	28	5	26	4	27	5	26	4	25	4	25	4	24	4	24	4	24	4		
那古小	204	34	212	35	199	33	(新) 小学校	645	108	623	104	575	96	561	94	533	89	514	86	499	83	440	73																						
	179	30						563	94															544	91	501	84	488	81	462	77	445	74	431	72	384	64								
	25	4						82	14															79	13	74	12	73	12	71	12	69	12	68	11	56	9								
北条小	622	104	583	97	543	91	(新) 小学校	516	86	451	75	623	104	575	96	561	94	533	89	514	86	499	83	440	73																				
	560	93						451	75																	544	91	501	84	488	81	462	77	445	74	431	72	384	64						
	62	10						65	11																	79	13	74	12	73	12	71	12	69	12	68	11	56	9						
館野小	130	22	109	18	106	18	(新) 小学校	104	17	104	17	623	104	575	96	561	94	533	89	514	86	499	83	440	73																				
	112	19						88	15																	544	91	501	84	488	81	462	77	445	74	431	72	384	64						
	18	3						16	3																	79	13	74	12	73	12	71	12	69	12	68	11	56	9						
九重小	71	12	62	10	63	11	(新) 小学校	58	10	48	8	623	104	575	96	561	94	533	89	514	86	499	83	440	73																				
	53	9						48	8																	544	91	501	84	488	81	462	77	445	74	431	72	384	64						
	18	3						10	2																	79	13	74	12	73	12	71	12	69	12	68	11	56	9						
館山小	348	58	343	57	330	55	(新) 小学校	323	54	279	47	378	63	368	61	349	58	344	57	339	57	326	54	295	49																				
	297	50						279	47																	331	55	324	54	308	51	303	51	298	50	287	48	261	44						
	51	9						44	7																	47	8	44	7	41	7	41	7	41	7	39	7	34	6						
西岬小	39	7	39	7	35	6	(新) 小学校	31	5	29	5	623	104	575	96	561	94	533	89	514	86	499	83	440	73																				
	36	6						29	5																	544	91	501	84	488	81	462	77	445	74	431	72	384	64						
	3	1						2	0																	79	13	74	12	73	12	71	12	69	12	68	11	56	9						
豊房小	53	9	52	9	52	9	(新) 小学校	51	9	42	7	623	104	575	96	561	94	533	89	514	86	499	83	440	73																				
	43	7						42	7																	544	91	501	84	488	81	462	77	445	74	431	72	384	64						
	10	2						9	2																	79	13	74	12	73	12	71	12	69	12	68	11	56	9						
房南小	112	19	104	17	95	16	小規模特認校	93	16	88	15	73	12	79	13	77	13	78	13	79	13	77	13	62	10																				
	98	16						83	14																	79	13	66	11	70	12	70	12	71	12	69	12	56	9						
	14	2						10	2																	7	1	9	2	8	1	8	1	8	1	8	1	6	1						
神余小	16	3	12	2	10	2	小規模特認校	83	14	79	13	73	12	79	13	77	13	78	13	79	13	77	13	62	10																				
	16	3						10	2																	79	13	66	11	70	12	70	12	71	12	69	12	56	9						
	0	0						10	2																	7	1	9	2	8	1	8	1	8	1	8	1	6	1						
合計	1,695	283	1,603	267	1,506	251	小規模特認校	93	16	1,429	238	1,365	228	1,298	216	1,250	208	1,205	201	1,168	195	1,138	190	1,105	184																				
	1,475	246						1,239	207																	1,192	199	1,139	190	1,096	183	1,057	176	1,023	171	995	166	966	161	855	143				
	220	37						190	32																	173	29	159	27	154	26	148	25	145	24	143	24	139	23	120	20				

● 那古小学校・船形小学校を再編（統合）し、（現）那古小校舎を活用した新たな小学校を設置する。  
 ※ 中学校の再編を考慮し、令和12年度に再び学校再編の協議を行うこととする。  
 ※ 児童が在学中に2回目の学校再編を経験しないよう（6年間以上の学校運営）統合時期は1年前倒しとする。

● 令和13年度の第一中学校と館山中学校の統合を踏まえ、再度の学校再編について検討  
 ※ 令和12年度、PTA関係者を中心とした検討組織を編成し、令和8年度以降の学校運営状況や最新の児童数予測値等を踏まえ判断

● 北条小学校・館野小学校・九重小学校を再編（統合）し、（現）北条小校舎を活用した新たな小学校を設置する。

● 館山小学校・西岬小学校・豊房小学校を再編（統合）し、（現）館山小校舎を活用した新たな小学校を設置する。

● (旧) 市コミュニティセンターから豊房小学校へ各種支援機能の移転を検討  
 ○ 教育支援センター（不登校対策支援機能）  
 ○ マザーズホーム（発達支援対策機能）

● 民間事業者の参入について検討  
 ○ フリースクール機能（不登校対策の支援機能強化）  
 ○ 専門性の高い発達支援機能の充実

● 房南小学校・神余小学校を再編（統合）し、（現）房南学園校舎を活用した新たな「小規模特認校」を設置する。  
 ※ 市内小規模校の減少に伴う保護者・児童の選択肢として「市内全地区」から通学可能な制度とし、希望者には通学支援（スクールバス運行）を実施する。  
 ※ 房南・神余地区において標準規模校での教育環境を希望する保護者のため、館山小への遠距離通学支援（例：スクールバス運行）を実施する。

## 中学校再編計画

### 1 基本方針

- 令和4年3月策定の『将来に向けた学校のあり方に対する基本指針』では、有識者会議における意見を踏まえ、1学年30人以上（全校90人以上）が中学校における効果的な教育活動が最低限確保できる人数としている。  
※ 成長期にあたり生徒の興味・関心・能力等が多様化する時期であり、総合的な学習の時間、特別活動・部活動・学校行事等が生徒の成長にとって重要であり、小学校以上（最低限学年15人）に一定の学校規模を確保する必要がある。（館山市学校再編調査検討委員会（答申））
- 国が示す中学校の標準規模（学年／4～6学級）を下回る、第一中学校区・房南中学校区との保護者協議では、小規模化に伴う課題点（学習環境・部活動など）から早期の学校再編を望む意見が圧倒的に多く、市の基本指針及び保護者意見を踏まえ、**館山中学校との統合を行う**こととする。

### 2 保護者意見

- 第一中学校区・房南中学校区の保護者は、中学校の小規模化に対する課題点から、早期の学校再編を希望  
※ 中学校は最後の義務教育期間であり、高校受験を見据えた学習環境（教職員配置数含む）、部活動を含めた集団生活など、一定規模の学校を求めている。

### 3 校名等

- 現在の館山中学校は、令和3年4月に旧第二中学校と旧第三中学校の統合により開校した学校であり、公募により校名を決定した経緯があるが、その当時の校名決定理由は以下のとおり。これらの理由は、今後の統合後の学校にも合致するものと考えられるが、それらの経緯を踏まえ、学校や保護者の方々と協議し決定する。

#### （令和2年4月）統合準備委員会委員の意見

- 一番規模が大きい学校になり、地区名に偏ることなく市名を点けた方が良い。  館山市の代表となっている固有名詞である。  全国的に認知されている地名市名であり分かり易い。
- 地名に誇りを持って欲しいという願いを込めて。  将来的に他の中学校が統合した場合でも校名を変更する必要がない。

#### （令和2年4月）教育委員の意見

- 地域知名度と自治体名称から分かり易い。  将来的に他の中学校が統合した場合でも違和感がない。

### 4 統合時期

- 現在の館山中学校（旧第二中学校施設）は、津波浸水区域内に位置しており災害時におけるリスク回避のため、旧第三中学校敷地内に新たな中学校を建設中（令和7年4月供用開始予定）
- 一方、今後の生徒数は急激な減少が見込まれており（令和5年度966人→令和15年度610人）、直近の中学校の統合を踏まえ現在建設中の施設を増設することは、将来の余剰施設となり次世代の市民負担の増加に繋がる。
- よって、生徒数の予測値を踏まえ（新）館山中学校の施設規模において適切な教育環境を提供できる時期（教室数の不足が無い状態）に統合する。
- 統合する学校は、小規模化が著しい房南中学校区の生徒を優先することとする。

（新）館山中学校規模 普通教室：18 教室（6 教室×3 学年（2 階～4 階）） 特別支援教室：10 教室（2 階④・3 階④・4 階②） 合計 28 教室（特別支援教室の面積は、普通教室の半分）

① 令和9年4月 館山中学校に房南中学校を統合する。

■ 令和7年度

種別	生徒・学級	(館山中学校)				(房南中学校)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	199	222	226	647	18	17	18	53	54	40	49	143
	学級数	⑤	⑥	⑥	⑰	①	①	①	③	②	①	②	⑤
特別支援	生徒数	25	22	22	69	2	4	2	8	10	7	5	22
	学級数				⑩				②				④
合計	生徒数	224	244	248	716	20	21	20	61	64	47	54	165
	学級数				⑳				⑤				⑨

(館山中+房南中)			
1年	2年	3年	小計
217	239	244	700
⑥	⑥	⑦	⑰
27	26	24	77
			⑪
244	265	268	777
			⑳

(統合不可)  
教室数が不足し、良い教育環境を提供できない

■ 令和8年度

種別	生徒・学級	(館山中学校)				(房南中学校)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	163	199	222	584	19	18	17	54	50	54	40	144
	学級数	⑤	⑤	⑥	⑰	①	①	①	③	②	②	①	⑤
特別支援	生徒数	32	25	22	79	2	2	4	8	7	10	7	24
	学級数				⑪				②				④
合計	生徒数	195	224	244	663	21	20	21	62	57	64	47	168
	学級数				⑳				⑤				⑨

(館山中+房南中)			
1年	2年	3年	小計
182	217	239	638
⑤	⑥	⑥	⑰
34	27	26	87
			⑫
216	244	265	725
			㉑

(統合不可)  
1年普通学級が5学級となり教室を分割し特別支援教室化すれば対応することも出来るが、3年生の転入状況(+2名)によっては教室数が不足し、より良い教育環境を提供できない危険性がある

■ 令和9年度

種別	生徒・学級	(館山中学校)				(房南中学校)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	161	163	199	523	14	19	18	51	44	50	54	148
	学級数	⑤	⑤	⑤	⑮	①	①	①	③	②	②	②	⑥
特別支援	生徒数	30	32	25	87	2	2	2	6	11	7	10	28
	学級数				⑫				②				④
合計	生徒数	191	195	224	610	16	21	20	57	55	57	64	176
	学級数				㉒				⑤				⑩

(館山中+房南中)			
1年	2年	3年	小計
175	182	217	574
⑤	⑤	⑥	⑮
32	34	27	93
			⑬
207	216	244	667
			㉓

(統合可能)  
1年・2年の普通学級が5学級となり教室数が充足すると共に、全生徒数が700人を下回り、余裕のある学校環境・指導面での充実が図られる。

■ 令和10年度

種別	生徒・学級	(館山中学校)				(房南中学校)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	162	161	163	486	21	14	19	54	37	44	50	131
	学級数	⑤	⑤	⑤	⑮	①	①	①	③	①	②	②	⑤
特別支援	生徒数	28	30	32	90	4	2	2	8	6	11	7	24
	学級数				⑬				②				④
合計	生徒数	190	191	195	576	25	16	21	62	43	55	57	155
	学級数				㉔				⑤				⑨

(館山中+房南中)			
1年	2年	3年	小計
183	175	182	540
⑤	⑤	⑤	⑮
32	32	34	98
			⑭
215	207	216	638
			㉕

(統合翌年度)  
全学年の普通学級が5学級となり、教室数が不足することは無い。

② 令和13年4月 館山中学校に第一中学校を統合する。

■ 令和11年度

種別	生徒・学級	(館山中+房南中)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	173	183	175	531	29	37	44	110
	学級数	⑤	⑤	⑤	⑮	①	①	②	④
特別支援	生徒数	25	32	32	89	3	6	11	20
	学級数				⑬				③
合計	生徒数	198	215	207	620	32	43	55	130
	学級数				⑳				⑦

(館山中+房南中+第一中)			
1年	2年	3年	小計
202	220	219	641
⑥	⑥	⑥	⑮
28	38	43	109
			⑮
230	258	262	750
			⑳

(統合不可)  
教室数が不足し、良い教育環境を提供できない

■ 令和12年度 (青色網掛け → 令和5年度時点において小学校未就学のため学級種別は予測値)

種別	生徒・学級	(館山中+房南中)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	156	173	183	512	37	29	37	103
	学級数	④	⑤	⑤	⑭	①	①	①	③
特別支援	生徒数	25	25	32	82	5	3	6	14
	学級数				⑫				③
合計	生徒数	181	198	215	594	42	32	43	117
	学級数				⑳				⑥

(館山中+房南中+第一中)			
1年	2年	3年	小計
193	202	220	615
⑤	⑥	⑥	⑮
30	28	38	96
			⑭
223	230	258	711
			⑳

(統合不可)  
教室数が不足し、良い教育環境を提供できない

■ 令和13年度 (青色網掛け → 令和5年度時点において小学校未就学のため学級種別は予測値)

種別	生徒・学級	(館山中+房南中)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	154	156	173	483	32	37	29	98
	学級数	④	④	⑤	⑬	①	①	①	③
特別支援	生徒数	22	25	25	72	5	5	3	13
	学級数				⑩				③
合計	生徒数	176	181	198	555	37	42	32	111
	学級数				⑳				⑥

(館山中+房南中+第一中)			
1年	2年	3年	小計
186	193	202	581
⑤	⑤	⑥	⑮
27	30	28	85
			⑪
213	223	230	666
			⑳

(統合可能)  
1年・2年の普通学級が5学級となり教室数が充足すると共に、全生徒数が700人を下回り、余裕のある学校環境・指導面での充実が図られる。

■ 令和14年度 (青色網掛け → 令和5年度時点において小学校未就学のため学級種別は予測値)

種別	生徒・学級	(館山中+房南中)				(第一中学校)			
		1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
普通学級	生徒数	140	154	156	450	34	32	37	103
	学級数				⑬	①	①	①	③
特別支援	生徒数	20	22	25	67	4	5	5	14
	学級数				⑩				③
合計	生徒数	160	176	181	517	38	37	42	117
	学級数				⑳				⑥

(館山中+房南中+第一中)			
1年	2年	3年	小計
174	186	193	553
⑤	⑤	⑤	⑮
24	27	30	81
			⑪
198	213	223	634
			⑳

(統合翌年度)  
全学年の普通学級が5学級となり、教室数が不足することは無い。

## 5 通学方法

### ① 房南地区（令和9年度統合）

現行の「館山市遠距離通学費補助金交付規則」及び「館山市スクールバスの運行及び管理に関する規則」において、中学校の遠距離通学支援について指定学校から半径4kmとして定めている。

房南地区は全ての地域で4kmを超過しているため、スクールバスによる通学支援を行う。（保護者負担なし）

※ 具体的な運行経路・時間等の概要に関しては、現在検討中であり令和5年度中に原案を作成する。

### ② 那古・船形地区（令和13年度統合）

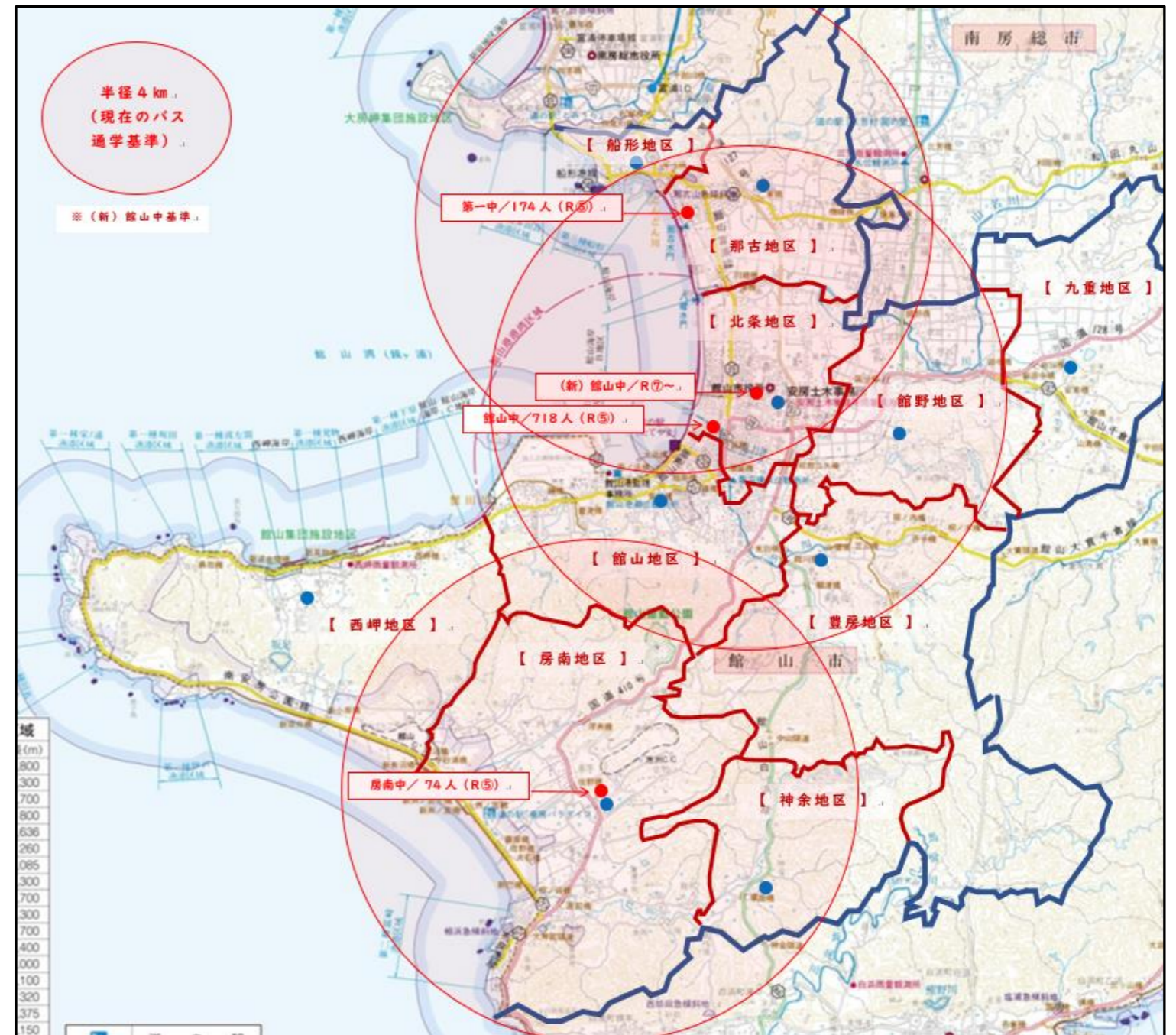
船形地区の一部及び那古地区の大部分は、上記に掲げる遠距離通学支援の対象となる半径4km以内であり、現行規則上は支援対象外である。

一方、市では船形館山線道路（船形バイパス）の整備を実施している状況であり、供用開始後は、船形・那古地区における交通環境が大幅に変わる可能性が高い。

また、統合年度は令和13年度と8年後であり、地域情勢や社会状況など、各種条件が変更となることも考えられる。

よって、現時点においてそれら通学手段の検討を行うことは適切ではなく、それらの検討時期は統合の3年前となる令和10年度に実施することとする。

なお、それらの検討においては、「現在の通学支援（規則等）の見直し」を含め、生徒の安全確保を最優先に考えた上で、通学ルートとなる「交通安全設備（カーブミラー・ガードレール等）の整備」や「生徒の基礎体力の確保」、「将来世代の保護者意見」など多数の観点から決定することとする。



## 6 選択肢の確保

令和13年度以降（第一中学校の統合後）は、市内公立中学校は1校となる。これに伴い、多数集団へ馴染めない生徒への対応、生徒間のトラブル解消方法、不登校支援など、学校を変更することで対処可能な選択肢が無くなることとなる。

市教育委員会では、これらへの対策を図るため、統合校（館山中学校）における対策の充実（県指定「不登校児童生徒支援推進校」による専門教室の設置、少人数指導、生徒動線の分けなど）に加え、学校再編に伴い廃校となった学校施設を活用した外部機能の拡充（教育支援センター／不登校支援教室、NPO団体、民間フリースクール事業者の誘致）など、専門性を高めた新たな支援機能を検討し、それらの対応を図るものとする。

□ 令和5年度～8年度：房南中学校が廃校となる前に、それら具体的対策の第1弾を検討し実行する。

□ 令和9年度～12年度：第一中学校が廃校となる前に、具体的対策の第2弾を検討し実行する。



## 小学校再編計画

### 1 基本方針

- 令和4年3月策定の『将来に向けた学校のあり方に対する基本指針』では、有識者会議における意見を踏まえ、1学年15人以上（全校90人以上）が小学校における効果的な教育活動が最低限確保できる人数としている。

※ グループ学習の展開、児童の競い合い、多様な考えに触れ合う機会などの確保や男女比の偏りの回避（館山市学校再編調査検討委員会（答申））

- 各地区との保護者協議による各種意見を踏まえたなかで、市全体の再編計画を策定するにあたり、小規模校の必要性に関し館山市学校再編調査検討委員会にて検討した結果、**新たに『小規模特認校』を1校設置し、保護者・児童の選択肢を確保するとともに、残りの学校については多数の保護者が望む『標準規模校（クラス替え可能な規模）』を中期的に維持可能な学校再編を実施する。**

### 2 保護者意見

- 各地区との保護者協議では、市内10小学校単位のうち9地区（神余地区除く）では、今後の少子化を見据え学校再編を望む意見となっている。また、それら9地区のうち8地区（館野地区除く）では、再編後の学校規模に関して『クラス替え可能な学校規模』を希望している状況である。その一方、少数意見ではあるが、保護者・児童の「選択肢」として『学年単一学級規模（複式学級ではない）の小規模校を市内に残す必要性がある』との意見もある。

### 3 地区住民意見

- 各地区の纏まった保護者意見を区長会等にて報告を行い、地区回覧板において住民周知を実施済み。
- 現在、これら保護者意見に対する反対意見は、寄せられていないが、具体的な学校再編計画（素案）を示していない状況でもあり、具体案の作成後（各地区「学校のあり方を考える会」との協議及び他の保護者との意見交換後）に、地域住民への説明会を開催する予定

## 小規模特認校の設置

（第4回 館山市学校再編調査検討委員会／意見結果）

- 小規模特認校の学校規模 = 1学年15人を“目標”とする。
  - ※ 同検討委員会からの答申では、効果的な教育活動が最低限確保できる人数を1学年15人以上としているが、『小規模特認校』が「保護者・児童の選択肢を確保する」という観点から設置するのであれば、その人数を最低限では無く“目標”とすべきである。
  - ※ 一方、上限値を設定しないと（入学者が殺到した場合）実態が「小規模」にならなくなる可能性もある。

（教育委員会の検討結果）

- 設置場所は、（現）房南小学校施設を活用し、通学区域は、「神戸地区・富崎地区・神余地区の児童」及び「その他の地区から通学を希望する児童」とする。
- （現）房南小学校施設とした理由は、「自然環境、災害リスク、移住施策との関連性、市内全域を俯瞰的に考えた場合の地域活力の維持、学校施設の状態など」これらを総合的に考え判断したものであり、具体的な検討結果は下記①・②のとおり。

① 学校規模

- 将来の学校規模（令和20年度）が、小規模特認校の目標とする児童（学年／15人）に近い学校は、那古小・房南小・館野小であり、それらに隣接する学校を統合した場合の将来予測値
- 各学校予測値／普通学級人数＋学区外通学者（全児童×2.5%と仮定）

年度	那古・船形				房南・神余				館野・九重			
	合計	那古	船形	学区外	合計	房南	神余	学区外	合計	館野	九重	学区外
R10	38.4	25.0	8.0	5.4	16.4	9.7	1.3	5.4	27.2	14.3	7.5	5.4
R15	34.4	22.8	7.0	4.6	16.1	10.5	1.0	4.6	19.3	10.2	4.5	4.6
R20	29.7	19.3	6.3	4.1	13.4	8.3	1.0	4.1	18.8	9.7	5.0	4.1
結果	× 少人数指導の規模を超過（一部クラス替え）				○ 概ね範囲内				◎ 範囲内			

② 地域性・学校施設等に関する検討結果（3校比較／那古・船形、房南・神余、館野・九重） ◎ → 特に優れている ○ → 優れている ▲ → 普通 × → 劣る

事項	補足説明	那古小（船形地区含む）	房南小（神余地区含む）	館野小（九重地区含む）
自然環境	□ 地域自然を活かした教育活動の提供	○（海・里山・農業）	◎（海・里山・農業・地域連携）	○（里山・農業・果樹）
災害リスク	□ 地震・津波等の自然災害リスク	▲（土砂災害警戒区域・地域内の一部が津波浸水区域内）	○（特段なし）	▲（土砂災害警戒区域）
移住関連	□ 移住地域としての実績 （雇用商工課／過去8年：合計177件）	▲（12世帯）	○（34世帯／神戸20・富崎8・神余6）	▲（6世帯／館野3・九重3）
人口動態	□ 地域ごとの年少人口（15才未満）減少率を踏まえた、 <u>地域活力維持の緊急性</u> （H23-R4比較）	×（地理的要件などから、市内でも人口減少率が低い地域）	◎（市内南部地域は、全般的に人口減少率が高く、地域活力維持の緊急性が高い）	×（地理的要件などから、市内でも人口減少率が低い地域）
		【那古地区／2位】 H23：729人→R4：563人 ▲166人▲22.8% 【船形地区／9位】 H23：346人→R4：207人 ▲139人▲40.2%	【神戸地区／4位】 H23：322人→R4：235人 ▲87人▲27.0% 【富崎地区／7位】 H23：43人→R4：28人 ▲15人▲34.9% 【神余地区／11位】 H23：52人→R4：24人 ▲28人▲53.8%	【館野地区／1位】 H23：457人→R4：379人 ▲78人▲17.1% 【九重地区／5位】 H23：208人→R4：149人 ▲59人▲28.4%
通学時間	□ 学区外通学者の利便性 （市内全域からの通学距離・時間等）	○（人口集中地区／北条から半径4km以内）	▲（中心部から距離はあるが、127号バイパスの開通等に伴い従前より所要時間は軽減）	○（人口集中地区／北条から半径4km以内）
学校施設	□ 学校施設の老朽化状態	▲	◎（木質感の味わえる内部仕上げ）	▲
	（校舎棟）	昭和55年築（RC4階）※耐震改修済	平成29年築（RC2階）	昭和54年築（RC2階／南棟）※耐震改修済 昭和58年築（RC2階／北棟）※新耐震基準
	（体育館）	昭和56年築（RC平屋）※新耐震基準	平成29年築（RC2階）	昭和62年築（RC平屋）※新耐震基準
その他	□ 地域情勢		県立安房特別支援学校・中里の家・児童養護施設が地域内に点在	

③ 設置時期 → 令和8年4月開校

(理由)

- 令和8年4月には、船形・那古地区の小学校を統合する計画(素案)であるため、それに合わせて児童・保護者の「選択肢」を提供する。
- 小規模特認校への学区外就学は、1年生への入学年において保護者が選択する可能性が高く、小学校へ入学済みの児童が「学区外就学」により学校を変更する事例は少ないと考慮される。よって、新たに設置する「小規模特認校」の学校規模を維持するため、可能な限り早期に開校することが望ましい。
- 房南中学校は令和9年度に「館山中学校」と統合する計画であり、一年前の令和8年度に「小規模特認校」開校するのであれば、中学校の進学に関しても影響がない。  
※ 令和7年度開校とした場合、神余小の児童(令和8年度中学校入学)が進路選択において「小規模特認校」の児童とは別の進学先(館山中学校)となってしまう。

④ 通学支援

- 継続的な児童数確保のため、市内3方向からスクールバス運行による通学支援を実施する。
- スクールバスの運行ルート・乗降場所など詳細事項は、学区外通学の申請者数・居住地域を踏まえ、開校前年度(令和7年度)に決定するが、児童の負担軽減のため乗車時間は最長60分とする。

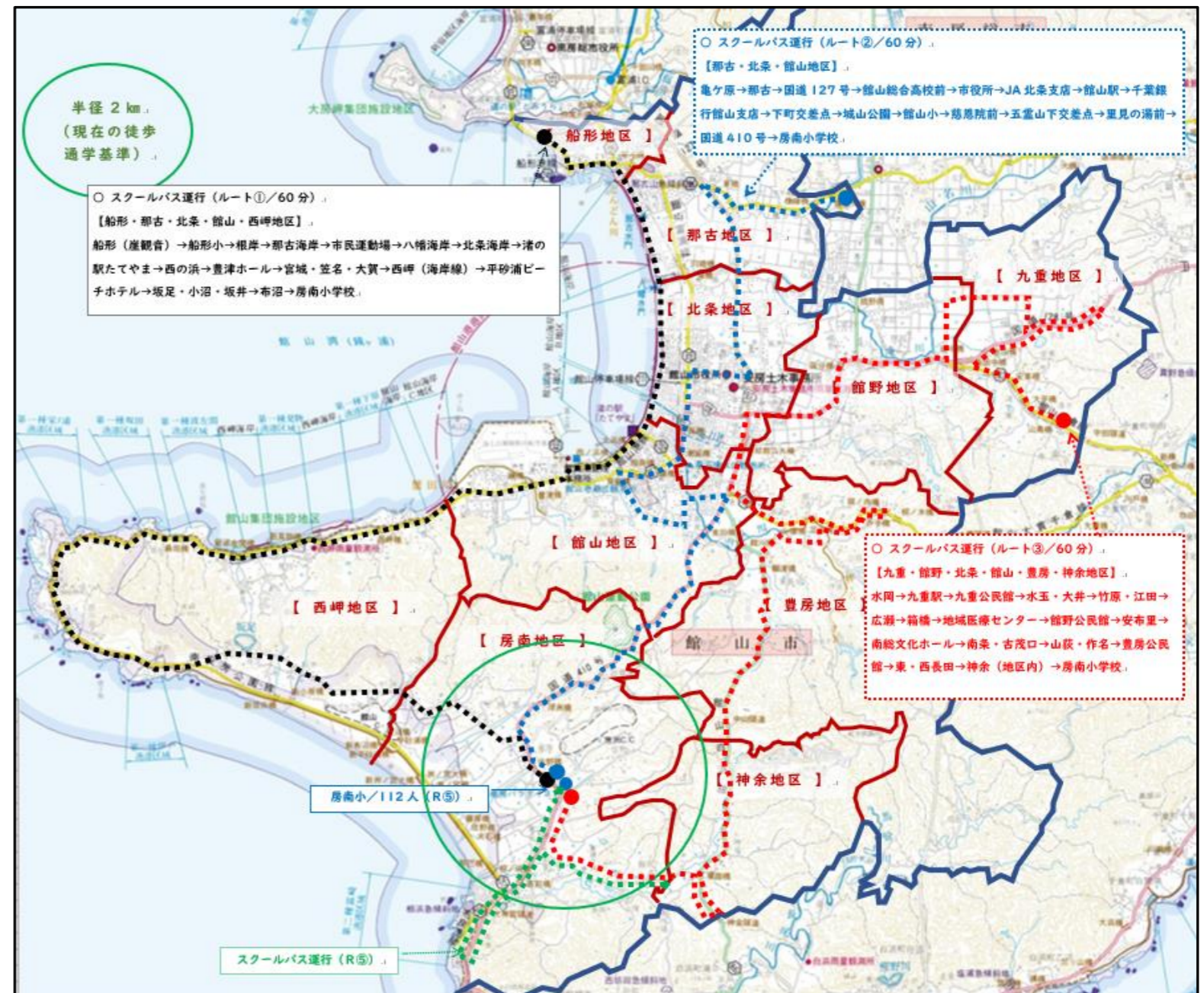
(理由)

公的な通学支援が無い場合、特色ある学校教育目標を掲げた「小規模特認校」を設置したとしても一定の児童数を確保することが困難である。

- ※ 小中一貫型「房南学園」の実績・県内他自治体の状況など
- ※ 共働き世帯の増加など社会情勢の変化

⑤ 房南・神余地区の児童(保護者)に対する配慮

- 房南・神余地区に在住する児童が「小規模特認校」以外の「標準規模校」の入学を希望する場合、公平性の観点から通学支援を実施する。
- 通学支援(スクールバス運行)を実施する学校は隣接学区である「館山小学校」とする。



⑥ 児童数（予測値）

年度	種別		1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均	
			人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級		
R 8 (統合年)	普通学級	学区内	9		10		12		11		25		16		83			
		学区外	5												5			
	(小計)	14	①	10	①	12	①	11	①	25	①	16	①	88	⑥	14.7		
	特別支援学級	1		1		2		0		4		2		10	②	1.7		
	合計	15		11		14		11		29		18		98	⑧	16.3		
R 9	普通学級	学区内	12		9		10		12		11		25		79			
		学区外	5		5										10			
	(小計)	17	①	14	①	10	①	12	①	11	①	25	①	89	⑥	14.8		
	特別支援学級	1		1		1		2		0		4		9	②	1.5		
	合計	18		15		11		14		11		29		98	⑧	16.3		
R 10	普通学級	学区内	12		12		9		10		12		11		66		11.0	
		学区外	5		5		5								15		2.5	
	(小計)	17	①	17	①	14	①	10	①	12	①	11	①	81	⑥	13.5		
	特別支援学級	2		1		1		1		2		0		7	②	1.2		
	合計	19		18		15		11		14		11		88	⑧	14.7		
R 11	普通学級	学区内	15		12		12		9		10		12		70			
		学区外	4		5		5		5						19			
	(小計)	19	①	17	①	17	①	14	①	10	①	12	①	89	⑥	14.8		
	特別支援学級	2		2		1		1		1		2		9	②	1.5		
	合計	21		19		18		15		11		14		98	⑧	16.3		
R 12	普通学級	学区内	11		15		12		12		9		10		69			
		学区外	4		4		5		5		5				23			
	(小計)	15	①	19	①	17	①	17	①	14	①	10	①	92	⑥	15.3		
	特別支援学級	1		2		2		1		1		1		8	②	1.3		
	合計	16		21		19		18		15		11		100	⑧	16.7		
R 13	普通学級	学区内	11		11		15		12		12		9		70			
		学区外	4		4		4		5		5		5		27			
	(小計)	15	①	15	①	19	①	17	①	17	①	14	①	97	⑥	16.2		
	特別支援学級	1		1		2		2		1		1		8	②	1.3		
	合計	16		16		21		19		18		15		105	⑧	17.5		
R 14	普通学級	学区内	10		11		11		15		12		12		71			
		学区外	4		4		4		4		5		5		26			
	(小計)	14	①	15	①	15	①	19	①	17	①	17	①	97	⑥	16.2		
	特別支援学級	1		1		1		2		2		1		8	②	1.3		
	合計	15		16		16		21		19		18		105	⑧	17.5		
R 15	普通学級	学区内	10		10		11		11		15		12		69			
		学区外	4		4		4		4		4		5		25			
	(小計)	14	①	14	①	15	①	15	①	19	①	17	①	94	⑥	15.7		
	特別支援学級	1		1		1		1		2		2		8	②	1.3		
	合計	15		15		16		16		21		19		102	⑧	17.0		

年度	種別		1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均	
			人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級		
R 16	普通学級	学区内	10		10		10		11		11		15		67			
		学区外	4		4		4		4		4		4		24			
	(小計)	14	①	14	①	14	①	15	①	15	①	19	①	91	⑥	15.2		
	特別支援学級	1		1		1		1		1		2		7	②	1.2		
	合計	15		15		15		16		16		21		98	⑧	16.3		
R 17	普通学級	学区内	9		10		10		10		11		11		61			
		学区外	4		4		4		4		4		4		24			
	(小計)	13	①	14	①	14	①	14	①	15	①	15	①	85	⑥	14.2		
	特別支援学級	1		1		1		1		1		1		6	①	1.0		
	合計	14		15		15		15		16		16		91	⑦	15.2		
R 18	普通学級	学区内	9		9		10		10		10		11		59			
		学区外	4		4		4		4		4		4		24			
	(小計)	13	①	13	①	14	①	14	①	14	①	15	①	83	⑥	13.8		
	特別支援学級	1		1		1		1		1		1		6	①	1.0		
	合計	14		14		15		15		15		16		89	⑦	14.8		
R 19	普通学級	学区内	9		9		9		10		10		10		57			
		学区外	4		4		4		4		4		4		24			
	(小計)	13	①	13	①	13	①	14	①	14	①	14	①	81	⑥	13.5		
	特別支援学級	1		1		1		1		1		1		6	①	1.0		
	合計	14		14		14		15		15		15		87	⑦	14.5		
R 20	普通学級	学区内	9		9		9		9		10		10		56			
		学区外	4		4		4		4		4		4		24			
	(小計)	13	①	13	①	13	①	13	①	13	①	14	①	80	⑥	13.3		
	特別支援学級	1		1		1		1		1		1		6	①	1.0		
	合計	14		14		14		14		14		15		86	⑦	14.3		

【 留意点 】 学区外通学者（市内全児童×2.5%の仮定数値）

（現／房南小学校：施設規模）

普通教室／6教室       特別支援教室／3教室

→ 小規模特認校制度に移行しても教室数は充足される。

⑦ その他：検討事項

○ 房南こども園の移転

- ・ 一定の児童数を維持するためには、幼・保施設との連携も重要な視点であり、房南中学校施設（統合後）に房南こども園を移転させることも検討すべき事項

○ 学童クラブの公設化

- ・ 実施主体（保護者会）の方針を尊重するが、仮に公設化を希望する場合、それらの実現に向けた検討を実施する。

⑧ 開校までのスケジュール

時 期	内 容
令和6年3月まで	<p>○ <u>小規模校の特性を活かした「特色ある学校づくり」</u>に向け、教育委員会において学校教育目標（素案）の作成</p> <p>（想定内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内人口集中地区（北条・館山）とは異なる、地域自然や郷土資源を活用した教育環境の提供（体験的な学習の充実、地域との協働など）</li> <li>・ 小規模校のメリットを活かした、きめ細やかな指導環境の提供（学習面・生活面）</li> <li>・ 子供の多様性に対応した教育指導（自己肯定感の向上・異年齢の学習活動など）</li> </ul>
令和6年11月	<p>● 『館山市立小中学校再編計画』の策定</p>
令和6年11月～令和7年8月	<p>● 「小規模特認校 開校準備検討委員会（※）」立上げ ※ 教育委員会・学校職員・保護者・地域代表など</p> <p>○ 小規模校の特性を活かした「特色ある学校づくり」に関する協議（学校教育目標の策定に向けた意見交換など）</p> <p>○ 校名・校歌・校章の決定</p> <p>○ 通学支援（スクールバス運行ルート等）の決定</p> <p>○ 学校統合後における環境変化に伴う児童（保護者）に対する支援体制についての検討</p>
令和7年度中	<p>○ 房南小・神余小 児童間の交流事業（年間計画を策定し実施）</p>
令和7年8月	<p>○ 令和8年度開校に向け学校説明会開催（入学予定者等）</p>
令和7年11月	<p>○ 学区外入学希望者申請受付～決定</p>
令和7年12月～令和8年2月	<p>○ 学区外通学者の通学支援方法（スクールバス運行の時間等の詳細事項）決定</p>
令和8年4月	<p>● 『小規模特認校』開校</p>

## 船形地区・那古地区の学校再編

### ① 今後の方針

- 船形小学校・那古小学校を統合し、令和8年4月に（現）那古小校舎を活用した新たな小学校を開校する。
- 令和13年度の第一中学校と館山中学校の統合を踏まえ、令和12年度（開校後5年目）に再度検討組織（教育委員会・PTA関係者）を立ち上げ、統合後の学校運営状況、最新の児童数予測値を踏まえ、再度学校再編に関する協議を行う。

#### （理由）

- ・ 第一中学校と館山中学校を統合可能な時期は、（新）館山中学校の施設規模（教室数等）から最短で令和13年度である。
- ・ 第一中学校の統合前に、館山中学校の学区内の小学校と統合した場合、小学校6年間で築き上げた児童の人間関係が中学校で分断されることとなり、子供達にとってより良い環境ではない。
- ・ 令和14年度以降の学校のあり方に関しては、新たに運営する学校運営状況を踏まえ、再度判断可能な時期が残されているため、そのタイミングで再考すべき事項である。
- ・ 仮に令和14年度以降に更なる学校再編が行われた場合、児童が小学校在学中に2回目の学校再編を経験しないよう統合時期は1年前倒しとし令和8年4月とする。  
これにより、最低でも6年間以上の学校運営が担保されることとなる。

### ② 児童数予測値

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 8 (統合年)	普通学級	35	①	33	①	38	②	30	①	38	②	45	②	219	⑨	36.5
	特別支援	4		5		5		3		6		11		34	⑤	5.7
	合計	39		38		43		33		44		56		253	⑭	42.2
R 9	普通学級	30	①	35	①	33	①	38	②	30	①	38	②	204	⑧	34.0
	特別支援	5		4		5		5		3		6		28	⑤	4.7
	合計	35		39		38		43		33		44		232	⑬	38.7
R 10	普通学級	32	①	30	①	35	①	33	①	38	②	30	①	198	⑦	33.0
	特別支援	4		5		4		5		5		3		26	④	4.3
	合計	36		35		39		38		43		33		224	⑪	37.3
R 11	普通学級	33	①	32	①	30	①	35	①	33	①	38	②	201	⑦	33.5
	特別支援	4		4		5		4		5		5		27	④	4.5
	合計	37		36		35		39		38		43		228	⑪	38.0
R 12	普通学級	29	①	33	①	32	①	30	①	35	①	33	①	192	⑥	32.0
	特別支援	4		4		4		5		4		5		26	④	4.3
	合計	33		37		36		35		39		38		218	⑩	36.3
R 13	普通学級	29	①	29	①	33	①	32	①	30	①	35	①	188	⑥	31.3
	特別支援	4		4		4		4		5		4		25	④	4.2
	合計	33		33		37		36		35		39		213	⑩	35.5

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 14	普通学級	28	①	29	①	29	①	33	①	32	①	30	①	181	⑥	30.2
	特別支援	4		4		4		4		4		5		25	④	4.2
	合計	32		33		33		37		36		35		206	⑩	34.3
R 15	普通学級	28	①	28	①	29	①	29	①	33	①	32	①	179	⑥	29.8
	特別支援	4		4		4		4		4		4		24	④	4.0
	合計	32		32		33		33		37		36		203	⑩	33.8
R 16	普通学級	27	①	28	①	28	①	29	①	29	①	33	①	174	⑥	29.0
	特別支援	4		4		4		4		4		4		24	④	4.0
	合計	31		32		32		33		33		37		198	⑩	33.0
R 17	普通学級	25	①	27	①	28	①	28	①	29	①	29	①	166	⑥	27.7
	特別支援	4		4		4		4		4		4		24	④	4.0
	合計	29		31		32		32		33		33		190	⑩	31.7
R 18	普通学級	25	①	25	①	27	①	28	①	28	①	29	①	162	⑥	27.0
	特別支援	4		4		4		4		4		4		24	④	4.0
	合計	29		29		31		32		32		33		186	⑩	31.0
R 19	普通学級	25	①	25	①	25	①	27	①	28	①	28	①	158	⑥	26.3
	特別支援	4		4		4		4		4		4		24	④	4.0
	合計	29		29		29		31		32		32		182	⑩	30.3
R 20	普通学級	24	①	25	①	25	①	25	①	27	①	28	①	154	⑥	25.7
	特別支援	4		4		4		4		4		4		24	④	4.0
	合計	28		29		29		29		31		32		178	⑩	29.7

### ③ 利用施設

- （現）那古小学校施設を利用する。

#### （理由）

- ・ 那古小学区の児童数が多数であり、通学の利便性・安全面を考慮した結果（令和10年度／那古学区169人・船形学区55人）
- ・ 学校施設規模、老朽化状況において、両校とも差がない状態である。

校舎（面積）	船形（4,023㎡／22教室）・那古（3,137㎡／24教室）	校舎（建築年）	船形（S57年築）・那古（S53年築、S60年築）
体育館（面積）	船形（968㎡）・那古（720㎡）	運動場（面積）	船形（5,104㎡）・那古（5,824㎡）

④ 開校までのスケジュール

時 期	内 容
令和6年11月	● 『館山市立小中学校再編計画』の策定
令和6年11月～令和7年9月	● 「開校準備検討委員会(※)」立上げ ※ 教育委員会・学校職員・保護者・地域代表など ○ 新学校の学校教育目標の検討～策定 ○ 校名・校章・校歌の決定 ○ 通学支援(船形地区内のスクールバス運行ルート等)の決定 ○ 学校統合後における環境変化に伴う児童(保護者)に対する支援体制についての検討
令和7年10月	○ 令和8年度開校に向けた保護者説明会
令和7年度中	○ 船形小・那古小 児童間の交流事業(年間計画を策定し実施) ○ 船形地区・那古地区の各地域資源を活かした教育課程・プログラムの検討
令和8年4月	● 統合校開校

⑤ 通学方法

現行の「館山市遠距離通学費補助金交付規則」及び「館山市スクールバスの運行及び管理に関する規則」において、小学校の遠距離通学支援について指定学校から半径2kmとして定めている。

船形地区の大部分は、半径2km圏内の位置にあるが、その一方で、道路幅員が狭い箇所も多々存在している状況である。

よって、半径2km圏内の地域を含め児童の通学上の安全確保の観点からスクールバス運行ルートを決定する。

※ 具体的な運行経路・時間等の概要に関しては、現在検討中であり令和5年度中に原案を作成し「開校準備検討委員会」での意見交換を含め最終決定する。



館山地区・西岬地区・豊房地区の学校再編

① 今後の方針

- 館山小学校・西岬小学校・豊房小学校を統合し、令和9年4月に（現）館山小校舎を活用した新たな小学校を開校する。
- 館山小学校の学校施設は、全体的に老朽化が著しいため統合前に大規模改修工事を実施する。

・ 令和6年度：実施設計      ・ 令和7～8年度：工事（校舎、プール施設など）

※ 大規模改修工事の実施においては、児童が学期や年度により校舎内を移転する必要があり、教職員の業務負荷を含め児童により良い教育環境を確保するため、工事完了後の学校統合とする。

② 児童数予測値

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 9 (統合年)	普通学級	57	②	51	②	53	②	65	②	57	②	63	②	346	⑫	57.7
	特別支援	8		6		7		10		10		13		54	⑧	9.0
	合計	65		57		60		75		67		76		400	⑳	66.7
R 10	普通学級	48	②	57	②	51	②	53	②	65	②	57	②	331	⑫	55.2
	特別支援	6		8		6		7		10		10		47	⑦	7.8
	合計	54		65		57		60		75		67		378	⑱	63.0
R 11	普通学級	50	②	48	②	57	②	51	②	53	②	65	②	324	⑫	54.0
	特別支援	7		6		8		6		7		10		44	⑥	7.3
	合計	57		54		65		57		60		75		368	⑱	61.3
R 12	普通学級	49	②	50	②	48	②	57	②	51	②	53	②	308	⑫	51.3
	特別支援	7		7		6		8		6		7		41	⑥	6.8
	合計	56		57		54		65		57		60		349	⑱	58.2
R 13	普通学級	48	②	49	②	50	②	48	②	57	②	51	②	303	⑫	50.5
	特別支援	7		7		7		6		8		6		41	⑥	6.8
	合計	55		56		57		54		65		57		344	⑱	57.3
R 14	普通学級	46	②	48	②	49	②	50	②	48	②	57	②	298	⑫	49.7
	特別支援	6		7		7		7		6		8		41	⑥	6.8
	合計	52		55		56		57		54		65		339	⑱	56.5

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 15	普通学級	46	②	46	②	48	②	49	②	50	②	48	②	287	⑫	47.8
	特別支援	6		6		7		7		7		6		39	⑥	6.5
	合計	52		52		55		56		57		54		326	⑱	54.3
R 16	普通学級	44	②	46	②	46	②	48	②	49	②	50	②	283	⑫	47.2
	特別支援	6		6		6		7		7		7		39	⑥	6.5
	合計	50		52		52		55		56		57		322	⑱	53.7
R 17	普通学級	43	②	44	②	46	②	46	②	48	②	49	②	276	⑫	46.0
	特別支援	6		6		6		6		7		7		38	⑥	6.3
	合計	49		50		52		52		55		56		314	⑱	52.3
R 18	普通学級	43	②	43	②	44	②	46	②	46	②	48	②	270	⑫	45.0
	特別支援	6		6		6		6		6		7		37	⑥	6.2
	合計	49		49		50		52		52		55		307	⑱	51.2
R 19	普通学級	43	②	43	②	43	②	44	②	46	②	46	②	265	⑫	44.2
	特別支援	5		6		6		6		6		6		35	⑤	5.8
	合計	48		49		49		50		52		52		300	⑱	50.0
R 20	普通学級	42	②	43	②	43	②	43	②	44	②	46	②	261	⑫	43.5
	特別支援	5		5		6		6		6		6		34	⑤	5.7
	合計	47		48		49		49		50		52		295	⑱	49.2

③ 開校までのスケジュール

時期	内容
令和6年11月	● 『館山市立小中学校再編計画』の策定
令和7年～8年度	● 「開校準備検討委員会（※）」立上げ ※ 教育委員会・学校職員・保護者・地域代表など ○ 新学校の学校教育目標の検討～策定 ○ 校名・校章・校歌の決定 ○ 通学支援（西岬・豊房地区のスクールバス運行ルート等）の決定 ○ 学校統合後における環境変化に伴う児童（保護者）に対する支援体制についての検討 ○ 館山地区・西岬地区・豊房地区の各地域資源を活かした教育課程・プログラムの検討
令和8年度	○ 館山小・西岬小・豊房小 児童間の交流事業（年間計画を策定し実施） ○ 令和9年度開校に向けた保護者説明会
令和9年4月	● 統合校開校



#### ④ 通学方法

現行の「館山市遠距離通学費補助金交付規則」及び「館山市スクールバスの運行及び管理に関する規則」において、小学校の遠距離通学支援について指定学校から半径2kmとして定めている。

西岬地区・豊房地区は全ての地域で2kmを超過しているため、スクールバスによる通学支援を行う。(保護者負担なし)

※ 具体的な運行経路・時間等の概要に関しては、現在検討中であり令和5年度中に原案を作成し「開校準備検討委員会」での意見交換を含め最終決定する。



## 北条地区・館野地区・九重地区の学校再編

### ① 今後の方針

- 北条小学校・館野小学校・九重小学校を統合し、令和9年4月に（現）北条小校舎を活用した新たな小学校を開校する。

※ 令和7年4月の（新）館山中学校の移転・北条こども園の開園に伴う周辺道路の状況変化等を踏まえ、児童の通学上の安全対策の検討及び改善を実施する。

### ② 児童数予測値

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R9 (統合年)	普通学級	81	③	85	③	97	③	85	③	112	④	103	③	563	⑱	93.8
	特別支援	12		13		14		13		15		15		82	⑪	13.7
	合計	93		98		111		98		127		118		645	⑳	107.5
R10	普通学級	84	③	81	③	85	③	97	③	85	③	112	④	544	⑱	90.7
	特別支援	12		12		13		14		13		15		79	⑪	13.2
	合計	96		93		98		111		98		127		623	⑳	103.8
R11	普通学級	69	②	84	③	81	③	85	③	97	③	85	③	501	⑰	83.5
	特別支援	10		12		12		13		14		13		74	⑪	12.3
	合計	79		96		93		98		111		98		575	⑳	95.8
R12	普通学級	72	③	69	②	84	③	81	③	85	③	97	③	488	⑰	81.3
	特別支援	12		10		12		12		13		14		73	⑩	12.2
	合計	84		79		96		93		98		111		561	⑰	93.5
R13	普通学級	71	③	72	③	69	②	84	③	81	③	85	③	462	⑰	77.0
	特別支援	12		12		10		12		12		13		71	⑨	11.8
	合計	83		84		79		96		93		98		533	⑳	88.8
R14	普通学級	68	②	71	③	72	③	69	②	84	③	81	③	445	⑯	74.2
	特別支援	11		12		12		10		12		12		69	⑨	11.5
	合計	79		83		84		79		96		93		514	⑳	85.7

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R15	普通学級	67	②	68	②	71	③	72	③	69	②	84	③	431	⑮	71.8
	特別支援	11		11		12		12		10		12		68	⑨	11.3
	合計	78		79		83		84		79		96		499	⑳	83.2
R16	普通学級	65	②	67	②	68	②	71	③	72	③	69	②	412	⑭	68.7
	特別支援	10		11		11		12		12		10		66	⑨	11.0
	合計	75		78		79		83		84		79		478	⑳	79.7
R17	普通学級	64	②	65	②	67	②	68	②	71	③	72	③	407	⑭	67.8
	特別支援	10		10		11		11		12		12		66	⑨	11.0
	合計	74		75		78		79		83		84		473	⑳	78.8
R18	普通学級	64	②	64	②	65	②	67	②	68	②	71	③	399	⑬	66.5
	特別支援	9		10		10		11		11		12		63	⑨	10.5
	合計	73		74		75		78		79		83		462	⑳	77.0
R19	普通学級	62	②	64	②	64	②	65	②	67	②	68	②	390	⑫	65.0
	特別支援	8		9		10		10		11		11		59	⑨	9.8
	合計	70		73		74		75		78		79		449	⑳	74.8
R20	普通学級	62	②	62	②	64	②	64	②	65	②	67	②	384	⑫	64.0
	特別支援	8		8		9		10		10		11		56	⑦	9.3
	合計	70		70		73		74		75		78		440	⑱	73.3

### ③ 開校までのスケジュール

時期	内容
令和6年11月	● 『館山市立小中学校再編計画』の策定
令和7年～8年度	● 「開校準備検討委員会(※)」立上げ ※ 教育委員会・学校職員・保護者・地域代表など ○ 新学校の学校教育目標の検討～策定 ○ 校名・校歌・校章の決定 ○ 通学支援（館野・九重地区のスクールバス運行ルート等）の決定 ○ 北条地区・館野地区・九重地区の各地域資源を活かした教育課程・プログラムの検討 ○ 学校統合後における環境変化に伴う児童（保護者）に対する支援体制についての検討
令和8年度	○ 北条小・館野小・九重小 児童間の交流事業（年間計画を策定し実施） ○ 令和9年度開校に向けた保護者説明会
令和9年4月	● 統合校開校

#### ④ 通学方法

現行の「館山市遠距離通学費補助金交付規則」及び「館山市スクールバスの運行及び管理に関する規則」において、小学校の遠距離通学支援について指定学校から半径2kmとして定めている。

館野地区の一部及び九重地区の全域は2kmを超過しているため、スクールバスによる通学支援を行うとともに、2km圏内の場合においても、通学（道路）環境や児童の健康増進の観点から通学支援の検討を行う。（保護者負担なし）

※ 具体的な運行経路・時間等の概要に関しては、現在検討中であり令和5年度中に原案を作成し「開校準備検討委員会」での意見交換を含め最終決定する。



不登校児支援・発達支援（特別な支援が必要な児童生徒）機能の充実策 【豊房小学校跡地利活用】

① 現状

（不登校児／人数・割合）

種別	人数等	H25	H30	R4	増減 (H25比)
小学校	不登校児	2	12	33	+31
	全児童数	2,268	2,036	1,787	▲481
	割合(%)	0.1%	0.6%	1.8%	+1.7%
中学校	不登校児	19	37	37	+18
	全生徒数	1,197	1,025	973	▲224
	割合(%)	1.6%	3.6%	3.8%	+2.2%

（特別支援学級／人数・割合）

種別	人数等	H25	H30	R4	増減 (H25比)
小学校	特別支援人数	104	172	208	+104
	全児童数	2,268	2,036	1,787	▲481
	割合(%)	4.6%	8.4%	11.6%	+7.0%
中学校	特別支援人数	41	50	56	+15
	全生徒数	1,197	1,025	973	▲224
	割合(%)	3.4%	4.9%	5.8%	+2.4%

● 不登校児の人数増加は、全国的な傾向となっている。

（文部科学省／令和3年度 不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果）

■ 不登校児割合（不登校児／全児童生徒数）

○ 小学校 1.3%    ○ 中学校 5.0%

■ 公立小学校（不登校要因）

① 本人に係る状況（無気力・不安、生活リズムの乱れ・あそび・非行） 63.0%

② 家庭に係る状況（親子の関わり方、生活環境の変化、家庭内不和） 18.0%

③ 学校に係る状況（人間関係の問題、学業不振、不適応など） 14.0%

■ 公立中学校（不登校要因）

① 本人に係る状況（無気力・不安、生活リズムの乱れ・あそび・非行） 61.3%

② 学校に係る状況（人間関係の問題、学業不振、不適応など） 24.5%

③ 家庭に係る状況（親子の関わり方、生活環境の変化、家庭内不和） 9.4%

● 特別支援学級在籍児の人数増加も、全国的な傾向である。

（文部科学省／令和4年度 特別支援教育に関する調査結果）

■ 通級指導児童生徒数

H25：77,882人    R3：183,880人（+136.1%）

■ 障害種別（増加内容）

- ・ 注意欠陥多動性障害
- ・ 自閉、情緒障害

○ 障害に対する理解促進が進み、子供達の特性に応じたきめ細やかな指導により、自立した学校生活や理解度に応じた学習活動を実践可能となるため、人数・割合が増加することは課題点として捉えるよりも、きめ細やかな指導を含め、より良い教育環境を提供している状況

② 現在の対策と課題点（館山市）

分類	種別	内容	課題点
不登校児支援	学校（外）支援機能	○ 教育支援センター（コミュニティセンター内） ・ 学習支援（基礎学力の補充）、集団生活への適応（小集団による体験活動による人間関係づくり）、基本的生活習慣の改善等の相談などにより学校復帰を支援する機関	○ 在籍児の増加に伴う施設面積の不足
		○ 家庭児童相談室（市役所こども課内） ・ 学校教育・子育て養育に関する悩み相談室 → 専門機関との連携（民間支援団体・医療機関）	○ 対象人数の増加・複雑化による専門人材・機能の確保
	学校（内）支援機能	○ スクールカウンセラー（SC）の各校配置 → 専門機関との連携（民間支援団体・医療機関）	
発達支援	学校（外）支援機能	○ マザーズホーム（コミュニティセンター内） ・ 通所により基本的な生活習慣、集団生活適応の取得、運動発達の支援などを実施 ・ 専門職員との面談相談（理学療法士・臨床心理士・作業療法士など）	○ 発達支援の中核的支援機能の必要性

分類	種別	内容	課題点
		○ 家庭児童相談室（市役所こども課内） ・ 学校教育・子育て養育に関する悩み相談室 → 専門機関との連携（民間支援団体・医療機関）	
	学校（内）支援機能	○ 発達支援指導のため、専門職員による巡回指導の実施（各幼稚園・保育園・こども園・小学校／4名） ○ 特別支援教育学習支援員の配置（市内小中学校／31名） ○ 未就学児のため館山幼稚園内に特別支援専門クラスを設置（市内全地区からの入園可能）	○ 家庭教育との連携

③ 今後の方向性

分類	内容
不登校児支援	<p>（基本的な考え方）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学校に登校する」という結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す。</li> <li>○ 児童生徒が主体的に社会的自立や学校復帰に向かうよう、不登校のきっかけや継続理由に応じた適切な支援や働き掛けが出来る環境を整備する。</li> <li>→ 現在の教育支援センターの機能拡充、民間事業者・支援団体との更なる連携強化、ICTを活用した学習支援の確保・検討</li> </ul>
発達支援	<p>（基本的な考え方）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達に課題を持つ保護者・子供に対する相談窓口、各種支援機能の情報を一元化した“センター機能”の設置検討</li> </ul>

（環境整備）

- 校舎・運動場・体育館といった学校教育に必要なとされる基本的な機能を有した学校施設において「不登校児支援」・「(仮称)発達支援センター」の設置を検討
- 学校再編に伴い使用しなくなった学校施設のうち、人口集中地域からの距離を考慮し、設置場所は「(旧)豊房小学校」が最善と考える。
- ※ 不登校児の中には、通常的生活リズムに支障をきたしている場合があるため、中学生が自ら自転車により通所可能な位置が最適である。

④ 開校までのスケジュール（案）

時期	内容
令和6～8年度	○ 不登校児支援策及び(仮称)発達支援センター設置等に関する協議・検討 ○ 施設改修手法（費用等）に関する検討～予算化
令和9年3月末	○ 豊房小学校（閉校）
令和9年4～8月	○ 施設改修・移転作業
令和9年9月～	○ 「教育支援センター」開所 ○ 「(仮称)発達支援センター」開所



## 学校再編に伴う子供達へのより良い教育環境の提供内容

### ① 学校の再配置に伴う事項

- 少子化の時代においても、一定の学校規模を継続的に維持し、子供達がより多くの友人と触れ合い、新たな関係性を築く機会など様々な経験が出来る学校環境の提供
- 国が進める教科担任制の実施など、一定の学校規模による学習環境の充実
- 小規模校（特認校）を配置し、保護者・児童の特性に合った学校の選択肢を確保
- より専門性を高めた、不登校児支援・発達支援（特別な支援が必要な児童生徒）機能の充実強化

### ② 学校施設環境の改善（教育現場に対する投資の「選択と集中」）

- 適正な時期に必要な施設改修の実施を可能とする。（施設全体の大規模改修の実施／外壁・屋根・内装・床・WC設備など）
- 特別教室（理科室・図工室など）へのエアコン新設
- 学童クラブの受入増加に対応するための新たな施設改修・整備

### ③ 教育環境の改善

- 教職員の人的配置強化による学習・生活環境の充実（学校経営全般、少人数指導、英語指導教師、特別支援教育学習支援員、スクールカウンセラー、事務補助員など）
- 教材備品・図書類などの充実（ICT機材含む）

（参考：財政負担の軽減額）

種 別	今後 10 年間	単年度	備 考
投資経費	32.5 億円～50.6 億円	3.3 億円～5.1 億円	●今後必要となる大規模改修等の費用（53.5 億円～85.6 億円）のうち、学校再編により使用しなくなる学校施設の改修費用
経常経費	8.4 億円～13.4 億円	0.8 億円～1.3 億円	●毎年度必要となる学校運営費（3.9 億円）のうち、学校再編に伴い削減が見込まれる費用
合 計	40.9 億円～64.0 億円	4.1 億円～6.4 億円	